

栃木県岩舟町方言における意志・推量表現形式「べ」の用法

市岡香代

1 はじめに

本稿では、栃木県しもつがぐんいわふねまち下都賀郡岩舟町方言の高年層話者の「べ」¹について、品詞による接続の違いと統語環境を明らかにし、その用法の記述を行う。

「べ」は東日本で広く使われている形式であるが、その用法には地域差がある。前接語が用言の場合に、「べ」一形式で意志と推量を表す地域と、意志表現形式として「べ」推量の表現形式としては推量専用形の「ダンベ」を使い分ける地域とがある。

本稿で取り上げる栃木県南部地域は前者と後者の境界にあたる。そのため、この地域における「べ」の形態的な特徴と意味的な特徴を記述することは、東日本全体の「べ」の分布と変化を分析するのに重要なことであると考えられる。国立国語研究所編(1993)(2002)では、推量表現の場合に「べ」「ダンベ」が混用されていることが示されてはいるが、他の先行研究でも当該方言の「べ」について詳細な分析はされていない。

本稿では、岩舟町方言の「べ」について、その用法を意志の用法と推量の用法に分け、特に推量の用法の場合には「べ」「ダンベ」の二形式の使い分けに注目しながら、形態的な特徴と意味的な特徴を記述したい。

2 先行研究と本調査の概要

2.1 先行研究

栃木県方言の意志・推量表現については、表現形式の分布を調べたものに大橋(1976)、国立国語研究所編(1993)(2002)がある。また全国的分布図とグロットグラム調査から東日本全体の分布と変化を考察したものに井上(1985)がある。しかし、いずれも関東地方から東北地方にかけての広い地域における表現形式の分布を調べることに、またその分布から変化の過程を見出すことが目的とされているため、特定の方言における「べ」の意味・用法を分析した記述的な研究ではない。

井上(1985)では、東日本において、東北地方と関東地方ではそれぞれ異なる変化が進んでいることが指摘されている。推量表現の場合、東北地方では動詞・形容詞・名詞などすべての場合に文を終止させる形に「べ」をつけるという方向に単純化が進んでいると指摘し、それを「べの終助詞化」と名づけている。対して、関東地方では、意志表現と推量表現で語形を使い分ける方向、つまり意志表現には「べ」を推量表現

には「ダンベ」や「ダッペ」をつける方向に変化が進んでいると分析されている。

国立国語研究所編(1993)(2002)を見ても、意志表現と推量表現で「ベ」か「ダンベ」かという使い分けを持っているのは、栃木県を境としてそれ以西の地域の群馬・埼玉・東京・神奈川であり、井上(1985)の結果と一致する。

では、その境界でもある栃木県南部地域では「ベ」はどのような用法を持っているのだろうか。推量の場合には、「ベ」も「ダンベ」も等しく使われているのだろうか。このような点を検証するために調査を試みた。

2.2 調査の概要

本調査は東京都立大学方言学演習の一環として2005年8月から12月にかけて実施した。

栃木県下都賀郡岩舟町は、栃木県南部に位置する人口約2万人の町である。町のほぼ中央を国道50号が東西に走っており、佐野市と小山市に結びついている。鉄道は東武日光線静和駅とJR両毛線岩舟駅がある。近隣都市での就業と稲作・果樹栽培などの農業が中心の町である。

本稿では、岩舟町在住のA氏に筆者が個別に行った調査の結果を記述する。調査は、面接質問調査で期間中に複数回行った。主として翻訳式で行ったが、方言形式を話者に示してその使用を尋ねるという方法も併用した。

インフォーマント A氏 男性 1935年生(調査時69歳)

栃木県下都賀郡岩舟町五十畑在住 外住歴なし

以下岩舟町方言の「ベ」の形態的な特徴と意味的な特徴について記述する。

3 岩舟町方言の「ベ」の形態的特徴

本節では、まず岩舟町方言の「ベ」の形態的特徴について記述したい。2.1で述べたように、「ベ」の分析では、意志表現形式か推量表現形式かという点が問題となるが、ここでは意味・用法は問題とせず、前接語の品詞ごとに、岩舟町方言で用いられる語形を網羅的に挙げることにする。

まず「ベ」の接続については、前接する語が名詞・形容動詞の場合は「ダンベ」が接続し、動詞・形容詞の場合には「ベ」「ダンベ」が接続する。

- (1) コレワ サクラノキダンベ (これは桜の木だろう)
- (2) アノアタリワ ニギヤカダンベ (あの辺りにはにぎやかだろう)
- (3) アシタワ {アツカンベ/アツイベ/アツイダンベ} (明日は暑いだろう)

(4) アイツワ コノグライスグ {カク²ベ/カクダンベ}

(あいつはこのぐらいはすぐ書くだろう)

国立国語研究所編(1993)(2002)によれば、周辺地域では「ダッペ」「ダベ」という形式も見られるが、岩舟町方言では「ダッペ」は用いられない。「ダベ」という形式は「ソウダベ」という語形のみ用いられ、それ以外は「ダンベ」を用いるという回答を得た³。

(3)のように形容詞の場合、「ダンベ」は終止形に接続するが、「ベ」は終止形接続とカリ活用連体形接続がある。カリ活用連体形接続の場合、形容詞活用語尾「カル」が撥音化し「アツカンベ」という形態になる。カリ活用連体形+「ベ」は、岩舟町方言において現在も形容詞のモーラ数や意味に関わりなく広く使われている。

動詞の場合は、岩舟町方言では、活用によって接続が異なる。まず五段動詞の場合は、「ベ」でも「ダンベ」でも(4)のように終止形に接続する。動詞の語末がラ行音の場合は(5)のように撥音化する場合がある。

(5) アシタワ アメガ {フルベ/フンベ/フルダンベ} (明日は雨が降るだろう)

しかし、一段動詞の場合は、終止形接続に加えて未然形接続もある。

(6) ソロソロ {オキベ/オキルベ/オキンベ/オキルダンベ} (そろそろ起きるだろう)

可能動詞や受身や使役の助動詞など一段動詞型の活用をする場合も同様に未然形接続と終止形接続がある。

(7) コノホンワ キョージュエニ {ヨメベ/ヨメルベ/ヨメンベ/ヨメルダシベ}

(この本は今日中に読めるだろう)

(8) ソンナコトシタラ アイツニ {オコラレベ/オコラレルベ/オコラレンベ/

オコラレルダンベ} (そんなことしたらあいつに怒られるだろう)

サ変動詞とカ変動詞については、「シベ」や「キベ」という形式は用いられないが、終止形+「ベ」・「ダンベ」に加えて、「スベ」「クベ」といった形式が用いられる。

(9) スコシワ ベンキョー {*シベ/スベ/スルベ/スンベ/スルダンベ}

((これだけ怒られたらあいつも)少しは勉強するだろう)

(10) キョーワ モースコシハヤク {*キベ/クベ/クルベ/クンベ/クルダンベ}

((昨日は遅れたから)今日はもう少し早く来るだろう)

また、それぞれ否定形⁴の場合には、次のような語形が使われる。(5)'のように動詞の場合には、「ベ」だけではなく「マイ」も用いられる。

(1)' コレワ サクラノキ{ジャナカンベ/ジャナイベ/ジャナイダンベ}

(これは桜の木ではないだろう)

(3)' アシタワ {アツクナカンベ/アツクナイベ/アツクナイダンベ}

(明日は暑くないだろう)

(5) アシタワ アメワ {フラナイベ/フラナイダンベ/フルマイ}

(明日は雨は降らないだろう)

以上のように岩舟町方言の「べ」は非常に多様な語形を持っていることがわかった。観点を整理すると、以下の点になる。

- A. 「べ」か「ダンベ」か
- B. 「べ」の場合、形容詞の場合、カリ活用連体形接続か終止形接続か
一段動詞の場合、未然形接続か終止形接続か
カ変・サ変動詞の場合、「クベ」「スベ」か終止形接続か
- C. 動詞語末がラ行音の場合、撥音化するか
- D. 否定意志・否定推量の場合に「マイ」を使うか

特徴的なことは、一段動詞の場合に未然形接続と終止形接続が見られること、またカ変・サ変動詞の「クベ」「スベ」といった語形である。また、形容詞ではカリ活用連体形接続と終止形接続が見られることである。

尚以後は、Dについては、4.1の否定意志の場合には触れるが、否定推量の場合は「マイ」と「べ」の間に意味的な違いは見られなかったので特に「マイ」は取り上げない。Cの撥音化については、すべての語で起こるわけではないのでその事象自体も興味深いのだが、目的とする「べ」の用法には関わらないので特に取り上げず撥音化した語形については特に示さないこととする。

「べ」の統語環境については、「べ」「ダンベ」ともにカラ節やケレド節などのような独立度の高い従属節内で用いる事ができるという点が指摘できる。

(11) キョーワ アメガ {フルベ/フルダンベ}カラ カサオモツタイケ

(今日は雨が降るだろうから、傘を持っていけ)

(12) キョーワ アメガ {フルベ/フルダンベ}ケド ウンドーカイワ アルヨ

(今日は雨が降るだろうけど、運動会はあるよ)

終助詞については、「べ」「ダンベ」ともに「カ」「カナ」「ナ」「ネ」「ヨ」などと共起する。

4 岩舟町方言の「べ」の用法

岩舟町方言の「べ」は、意志の表現形式あるいは推量の表現形式として用いられる。推量表現の場合には、「べ」とともに推量専用形である「ダンベ」も用いられる。それぞれの用法の特徴を示したい。

4.1 意志の用法

岩舟町方言では、話し手の行為を行おうとする意志を表す場合に「べ」を用いる。この意志の用法は、「意志の表明」が基本的な用法であるが、対話で用いられる場合には、行為が話し手が聞き手に対して行うことか、または聞き手と一緒にすることかによって、「行為の申し出」「勧誘」に下位分類される。

表1 意志の用法

	独話	対話
話し手のみの行為	意志の表明	意志の表明 /行為の申し出
	そろそろ帰ろう	そろそろ帰ろうと思う /僕が持とうか
話し手を含む複数の行為	意志の表明	意志の表明 /勧誘
	皆で旅行に行こう	皆で旅行に行こうと思う /一緒に旅行に行こうよ

4.1.1 意志の表明

話し手が、まだ現実化していないある行為を行おうとする気持ちを表わすとき「べ」を使う。

(13) [仕事をしていて時計を見た。もう20時であることに気づいて、つぶやく。]

ソロソロ カエルベ (そろそろ帰ろう)

動作主体が、話し手を含む複数の人間の場合にも「べ」が使える。

(14) [今度の休みは家族みんなで旅行に行こうかと考えながら、つぶやく。]

コンドノヤスミワ ミンナデ リョコーニデモ イクベ

(今度の休みは (家族) みんなで旅行にでも行こう)

また、「べ」は疑問詞とも共起する。

(15) [玄関前で鍵を忘れたことに気づいて、つぶやく。]

ドウ {スベ/スルベ} (どうしよう)

(16) [AにしようかBにしようか迷いながら、つぶやく。]

Aニ {スベ/スルベ}カ Bニ {スベ/スルベ}カ ドッチニ {スベ/スルベ}

(AにしようかBにしようか、どっちにしよう)

このように「べ」は、独話や心内発話の場合において話し手の意志を表明する場合に用いられる。意志が決定されていない場合には終助詞「カナ」を付けるが、疑問の「カ」については(16)のような選択疑問文でなければあまり付けることはない。

対話において、相手の質問に応答する場面で自分の意志を表明する場合には、「べ」は「カナ」や「トオモ」を伴って使うことが多いが、言い切りで使うこともできる。

(17) [多くの物の中から一つを選ぶ。友人に「どれにするのか」と尋ねられて、答える。]

アカニ {スベ/スルベ} カナー (赤にしようかなあ)

(18) [友人に「今度の正月はどうするのか。」と尋ねられて、答える。]

オンセンニ イクベトモッテル (温泉に行こうと思ってる)

(19) [友人に「明日の会議に出てくれないか。」と頼まれて、答える。]

イーヨ オレガ {デベ/デルベ} (いいよ、俺が出よう)

(20) ヨーシ ツギワ ガンバルベ (よーし、次はがんばろう)

「と思う」を下接することによって、聞き手の存在に関わることのない話し手の意志の表明から、聞き手への告知に変わっている。(19)のように相手の依頼に答えて自分が行為をすることを申し出るような場合には終助詞を付けなくても言うことができる。また(20)のように、話し手が意志を宣言するような場合にも終助詞を付けなくても言うことができる。

また、話し手を含む複数の人間で行為を行う場合に聞き手にその意志を問うときには「カ」を付ける。これは、「カ」を付けることで、聞き手への問いかけているという発話態度を明確化しているということができる。

(21) [友人と一緒にパン屋でパンを選んでいる。友人に尋ねる。]

ドレニ {スベ/スルベ} カ (どれにしようか)

否定の意志を表す場合には、「ベ」ではなく「マイ」を使う。共通語の「イコウカイクマイカ」にあたる「肯定意志+カ 否定意志+カ」ような場合にも、「イクベカイクマイカ」という表現を使う。しかし、「マイ」という形式を用いるよりは動詞否定形で否定意志を表すことのほうが多い。

(22) アンナマズイミセニワ ニドト {イクマイ/*イカナイベ}

(あんなまずい店には二度と行かない)

(23) [友人に「今度の正月はどうするのか。」と尋ねられ、答える。]

オンセンニ {イクベカイクマイカ/*イクベカイカナイベカ} マヨッテル

(温泉に行こうか行くまいか迷ってる)

(22)' アンナマズイミセニワ ニドト イカナイ

(23)' オンセンニ イクカイカナイカ マヨッテル

4.1.2 行為の申し出や勧誘

「ベ」が対話場面で用いられるとき、話し手の行う行為が、聞き手に恩恵を与える行為であったり、聞き手と一緒にを行う行為であったりする場合には、「行為の申し出」

や「勧誘」になる。これらの用法は、話し手の意志を表明するという「意志の表明」の派生的な用法であると位置づけられる。

4.1.2.1 申し出

(24) (25) (26)のように、話し手が、聞き手に関わる行為をすることを申し出る場合に「ベ」を使う。特に、聞き手が恩恵を被るような行為が多い。

(24) [家を訪ねて来た友人が帰るといふ。友人に声をかける。]

エキマデ オクルベ (駅まで送ろう)

(25) [友人と部屋で談笑していると、段々暑くなってきた。友人に]

クーラーヲ {ツケベ/ツケルベ}カ↑ (クーラーをつけようか)

(26) [話し合いをしている仲間に。]

ソロソロ ケツロンヲ {ダスベ/ダスベ}ヨ。

((議論が煮詰まってきたから) そろそろ結論を出そうよ)

このような発話の場合も、「ベ」に後接する終助詞によって提案という意味になったり、聞き手に返答を要求する疑問⁵の意味になったりする。

自分から発話を切り出して行為の申し出をするような発話は、(19)のような依頼に答えて意志を表明する発話と意味的に連続しているといえる。

4.1.2.2 勧誘

話し手が聞き手に一緒に行為をしようとする場合も「ベ」を使う。

(27) [友人と一緒に仕事をしていて、疲れてきた。友人に声をかける。]

スコシ ヤスムベ (少し休もう)

(28) [皆でお菓子を食べているところに。友人に声をかける。]

オマエモ イッシヨニ {タベベ/タベルベ} (お前も一緒に食べよう)

(27)のように話し手を含めた複数の人間で一緒に行為を行う場合や、(28)のように聞き手に自分たちと同じ行為をするよう勧誘する場合にも「ベ」を使うことができる。

(27)の場合には、「カ」が後接すれば聞き手の意志を確認するような発話になるし、「ヨ」の場合には提案・呼びかけという発話になる。これも、これまでと同じように、後接する終助詞によって発話の意味が異なる。

(29) [複数の友人と映画館に来ている。友人たちがうるさいので注意する。]

モウスコシ シズカニ {スベ/スルベ}ヨ (もうすこし静かにしようよ)

(29)のように、自分たちの行為を改めるよう呼びかけることで相手の行為を間接的に

注意するような場合にも「べ」は使うことができるが、発話を発する場面が特に親しい人に限られるなど待遇的な制約が大きくあまり用いられない。

4.1.3 まとめ

以上のように、「べ」は話し手の行為を行おうとする意志を表明するような場合に使う。その行為が聞き手と関わりと持つ場合には申し出になったり勧誘になったりする。行為が、相手に恩恵を与えるような行為である場合には申し出になり、相手と一緒に言う行為であれば勧誘になる。さらに、「べ」は様々な終助詞を後接させることで、聞き手の判断を尋ねたり聞き手への提案になったりというような聞き手との関わりを示すこととなる。このような「べ」の意志の用法は、共通語の意志形「ウ/ヨウ」と同様の特徴であるといえる。

4.2 推量の用法

岩舟町方言の「べ」は、意志を表す場合には「べ」という形式だけであるが、推量の場合には、前接語が動詞や形容詞であると「べ」と推量専用形「ダンベ」の両形を用いる。本節では、推量の用法を「推量」と「確認要求」に分け、それぞれの特徴と「べ」「ダンベ」の使い分けについて示す。

4.2.1 推量

4.2.1.1 未来や現在の事態の推量

未来や現在の事態を推測する場合、「べ」「ダンベ」をともに使う。

(30) [夏の日の夕方。夕焼けを見ながら、つぶやく。]

アシタモ {アツカンベ/アツイベ/アツイダンベ}ナー (明日も暑いだろうなあ)

(31) [置いてある時計を見ながら、つぶやく。]

コレワ {タカカンベ/タカイベ/タカイダンベ}ナー (これは高いだろうなあ)

(32) [夏の日の夕方。夕焼けを見ながら、つぶやく。]

アシタモ {ハレベ/ハレルベ/ハレルダンベ}ナー

(明日も晴れるだろうなあ)

独白的に表明する場合にも、また(33)のように質問に対して応答する場面でも「べ」「ダンベ」は使うことできる。

(33) [「駅までどのくらいあるか。」と尋ねられ、答える。]

イチキロクライワ {アルベ/アルダンベ}ナー (1キロくらいはあるだろうなあ)

また、聞き手に判断を尋ねる場合には、疑問の「カ」を伴って発話する。

(34) [天気予報を聞いたという友人に尋ねる。自分は天気が分からない。]

アシタワ (サムカンベ/ サムイベ/ サムイダンベ)カ (明日は寒いだろうか)

これらの場合、「ベ」「ダンベ」の形式に違いはない。動詞の状態性などの違いによって、どちらの形式が使われるかという観点で調査もしてみたが、はっきりした違いは見られなかった⁶。

4.2.1.2 過去の事態の推量

過去の事態を推測する場合にも、「ベ」「ダンベ」が用いられる。しかしこの場合は、加えて過去形+「ンベ」という形式も用いることができる。

(35) [「昨日奥さんは家にいたか」と尋ねられ、答える。]

キノーワ ウチニ {イタンベ/イタベ/イタダンベ} (昨日は家にいただろう)

(36) [ドラマの内容がすごく感動的だったという話をしながら。]

スゴイードラマダッタカラ アイツモ キット

{ナイトンベ/ナイトベ/ナイトダンベ}ナー (あいつもきっと泣いただろうなあ)

この場合も、形式間で意味の違いはない⁷。

(30)～(33)のように、未来や現在の事態を単に推測する場合には、「イクンベ」というような「ン」を介した形式は使わない。篠木(1994)では、群馬県の青年層においては、現在推量においても「イクンベ」というような終止形+「ンベ」形式が見られると報告されているが、岩舟町方言においてはこのような形式は使わない。岩舟町方言では、(35)(36)のような過去の事態の推量の場合のみ過去形+「ンベ」という形式を用いる。

4.2.1.3 原因や理由の推量

現在の事態について、その背後にある原因や理由を推測する場合には、終止形+「ンダンベ」という形式を用いる。

(37) [寒いといって震えている友人を見て、別の友人と話している。]

アイツワ ネットデモ アルンダンベ (熱でもあるのだろう)

(38) [大きな鞆を持って歩いている友人を見て、別の友人と話している。]

アイツワ リョコウニデモ イクンダンベ (旅行にでも行くのだろう)

(39) [甘いものに全然手をつけなかった友人が帰った後で。]

タナカサンワ アマイモノガ キライナンダンベナー

(田中さんは甘い物が嫌いなのだろうなあ)

この場合には必ず「ン」を必要とする。そして、「ン」を介しても「ベ」を使うことはできず「ダンベ」を使う。

(37) アイツワ ネットデモ {*アルベ/*アルンベ/*アルダンベ /アルンダンベ}

事態の原因や理由がわからなかったりはっきりしなかったりする場合には、話し手自身の心内で考えたり、聞き手に問いかけたりするが、この場合にも「ンダンベ」を用いる。終止形+「ンダンベ」に「カ」をつけたり、疑問詞を用いたりして尋ねる。

(37)' [寒いといって震えている友人を見て、別の友人と話している。]

A: ドウシタンダンベカ (どうしたのだろうか)

B: ネットデモ アルンダンベ (熱でもあるのだろうか)

(38)' [大きな鞆を持って歩いている友人を見て、別の友人と話している。]

A: アイツワ ドコニ イグンダンベ (あいつはどこに行くのだろうか)

B: リョコウニデモ イグンダンベ (旅行にでも行くのだろうか)

(40) [難しい顔をして座っている友人を見て]

アイツワ ナニヲ カンガエテンダンベ (あいつは何を考えているのだろうか)

また、事態の原因や理由が、すでに起こったことである場合にも、「ンダンベ」を用いて過去形+「ンダンベ」を使う。しかし、この場合には過去形+「ンベ」という形式も用いることができる。

(41) [いつも置いてある隣の車がないのをみて]

A: ドウシタンダンベカ (どうしたのだろうか)

B: オバーサン ニューインシタソーダカラ ミマイニ

{イッタンベ/イッタンダンベ}

(おばあさんが入院したそうだから、見舞いに行ったのだろうか)

(42) [道路が濡れているのをみて]

ダレカガ ミズヲ {マイタンベ/マイタンダンベ} (誰かが水をまいたのだろうか)

4.2.1.4 推量の分類と言語形式

表2 推量の分類と言語形式

	単純推量/現在	単純推量/過去	原因・理由の推量/現在	原因・理由の推量/過去
	夕方は雨が降るだろう	去年は今年よりたくさん降っただろう	(雷が鳴っている) 雨が降るのだろう	(地面が濡れている) 雨が降ったのだろう
べ	○フルベ	○フッタベ	×	×
ダンベ	○フルダンベ	○フッタダンベ	×	×
ンベ	×	○フッタンベ	×	○フッタンベ
ンダンベ	×	×	○フルンダンベ	○フッタンダンベ

これまで述べてきた「推量」の分類と「べ」「ダンベ」の使用をまとめると表2のようになる。単純推量の場合には、「べ」「ダンベ」のいずれも使い、前接語のテンス形式によって未来・現在の事態か過去の事態かを表している。また、事態の背後にある原因・理由の推量の場合には「ンダンベ」を使う。前接語のテンス形式によって事態の原因・理由となることがらの時制を表している。

共通語との対応で見ると、単純推量は共通語の「ウ」「ダロウ」に、原因・理由の推量は「ノダロウ」に対応していると見ることができ、「ンダンベ」は「ノダロウ」に対応しているということができる。

しかし問題となるのは「ンベ」という形式である。「ンベ」は、過去の事態について単純に推測する場合にも、ある事態の過去に起こった原因・理由を推測する場合にも用いられる。つまり、「(去年は今年より) アメガ フッタダロウ」でも「(道路が濡れているのを見て) アメガ フッタノダロウ」でも「フッタンベ」を用いるのである。

「推量」の意味の細分類によって、単純推量では「べ」「ダンベ」をいずれも使い、事態の原因・理由の推量の場合には「ンダンベ」を使うという点は特徴として挙げるのができたが、過去の推量についてはさらに検討が必要である。

4.2.2 確認要求

話し手の推量内容を聞き手に確認したり、知識や記憶を確認したり、また聞き手の注意を喚起したりする「確認要求」の場合にも「べ」「ダンベ」は使うことができる。

「確認要求」の場合、さらに細かく意味を設定しても、形式の使い分けとは関係なく、表2と同様に「推量」が単純推量か原因・理由の推量か、言い換えれば共通語の「ダロウ」相当か「ノダロウ」相当かという点で使い分けがされる。

(43) [今夜町の集会がある。行かなければならない者同士で。]

キョー オマエモ {イクベ/イクダンベ}↑ (今日 (の集会に) お前も行くだろう)

- (44) [出かけるといったのに、なかなか支度をしない子供に対して。]
オマエモ イクンダンベ↑ ハヤクシロヨ (お前も行くんだろう。早くしろよ)
- (45) [友人はいつも〇さんに話しかけている。それを知っていて。]
オマエ 〇サンガ スキナダンベ↑ (お前は〇さんが好きなんだろう)
- (46) [買い物をしてきたという浪費家の友人に対して。]
ドウセオマエノコトダカラ タカイモノヲ {カッタンベ/カッタンダンベ}↑
(どうせお前のことだから、高いものを買ったんだろう)
- (47) [昔のクラスメートと。]
クラスニ 〇チャンテコガ {イタベ/イタンベ/イタダンベ}。アノコ…
(クラスに〇ちゃんという子がいただろう。あの子…)
- (48) [道を尋ねてきた友人に。]
ホラ アソコニ ポストガ {アルベ/アルダンベ}。ソコヲ…
(ほら、あそこにポストがあるだろう。そこを…)

いずれの場合でも、表2と同様の使い分けがされている。4.2.1の「推量」は、聞き手とは関わりを持たず単に話し手の判断を表明するもので、聞き手に問いかけたりするような聞き手と関わる部分の機能は終助詞が担っていたが、「確認要求」の場合は、話し手の判断を聞き手へ問いかける発話であるという点が異なる。しかし、そのような違いとは関係なく、「ベ」「ダンベ」「ンベ」「ンダンベ」は表2と同じ使い分けがされている。

4.2.3 その他の用例

「推量」「確認要求」のほかにも、次のような場合に「ベ」「ダンベ」を使う。

- (49) コノデンシャワ ナンテハヤク ハシルンダンベ
(この電車はなんて速く走るんだろう)
- (50) ナンキョクノコオリガ ゼンプトケタト {スルベ/スルダンベ}↑
(南極の氷が全部溶けたとするだろう。)
- (51) ヤマダサンワ ビョウキダンベ↑。スズキサンワ シゴトダンベ↑。
ダレモコレナインダヨ。
(山田さんは病気でしょう。鈴木さんは仕事でしょう。誰も来れないんだよ。)
- (52) マズ コウイウフウニ ハシヲ {モチアゲルベ/モチアゲルダンベ}
(まずこういうふうには端を持ちあげるだろう。)

これらは、すべて共通語の「ダロウ」「ノダロウ」の用法と重なる。これらの用法でも、

「べ」「ダンベ」「ンベ」「ンダンベ」は表2と同じ使い分けがされている。

5 まとめ

岩舟町方言の「べ」について、形態的な特徴と意味的な特徴について述べてきた。その用法を意志の用法と推量の用法に分け、推量の用法については「べ」と推量専用形「ダンベ」との使い分けに着目した。特徴をまとめると以下のようになる。

(1) 「べ」の接続は、動詞の場合活用により異なる。五段動詞の場合は終止形接続だが、一段動詞の場合には未然形接続と終止形接続の二つある。カ変・サ変動詞の場合には終止形接続に加えて「クベ」「スベ」という語形もある。形容詞の場合、終止形接続とカリ活用連体形接続がある。

(2) 「べ」の用法は、意志の用法と推量の用法に分けられる。

A. 意志の用法では、「べ」は話し手の行為を行おうとする意志を表明する場合に使う。「意志の表明」が基本的用法で、その派生的用法として、その行為が聞き手と関わりを持つ場合には「申し出」になったり「勧誘」になったりする。

B. 推量の用法では、「べ」に加えて推量専用形「ダンベ」を使う。現在の事態を単に推測する場合には「べ」「ダンベ」がともに使えるが、ある事態の理由や原因を推測する場合には「前接語+ンダンベ」という形式を使う。

この使い分けは、「推量」か「確認要求」かという、「単に判断を述べる」のかそれとも「判断を聞き手に問いかける（確認する）」のかという違いとは関わりが見られない。判断内容（推量内容）によって使い分けられている。

注

¹ 「べ」や「ダンベ」は、当該方言では末尾音が長音化したりしなかったりするが、本稿では長音拍を省略して表記する。尚、用例の頭にある「*」「?」は、それぞれ「文法的に不適格なこと」「文法的に不自然なこと」を表わす。また「↑」は文末イントネーションの上昇を表す。

² 当該方言では語中のカ行子音は有声化する場合もあるが、本稿では清音として表記する。

³ 「ソウダベ」の使用には、(53)のように「確認要求」の場合に用い、(54)のような「推量」には用いないという制限が見られた。

(53) [Bの着ているシャツについて話している。]

A: ソノシャツ イーネ。(そのシャツいいね)

B: {ソウダベ/ソウダンベ}↑。コナイダ カッタダヨ。(そうだろう。この…)

(54) アイツノチチオヤワ マジメダッタカラ アイツモタブン (*ソウダベ
/ソウダンベ) (あいつの父親はまじめだったから、あいつもそうだろう)

⁴ 否定形は音声的には「ナイ」と「ネー」が混用されるがどちらも「ベ」「ダンベ」に接続する。また「マイ」も「メー」と混用される。

(5)' ' アシタワ アメワ {フラナイベ/フラネーベ/フラナイダンベ/フラネーダンベ/
フルマイ/フルメー} (明日は雨は降らないだろう)

⁵ 疑問の「カ」の場合にはそのイントネーションも意味に関与するが、今後の課題とする。

⁶ インフォーマントに使用頻度を尋ねると、形容詞の場合はカリ活用連体形+「ベ」形式を多く用いるということであった。動詞については、「ダンベ」よりも「ベ」を用いるほうが多いという回答を得た。この場合「ダンベ」よりも「ベ」を多く使う理由は、語形の短さにも関係しているのではないだろうか。しかし、本調査は1個人の精査であり、調査方法も面接での翻訳式と誘導・確認式であるため、使用頻度について言及することはできないので、参考として示す。

⁵ インフォーマントの内省では、過去形+ンベという「ン」を介した形式を最も使うということである。

参考文献

井上史雄(1985)「現代東日本のペイの分布と変化」『新しい日本語—《新方言》の分布と変化—』明治書院

大橋勝男(1976)『関東地方域方言事象分布地図 第2巻表現法篇』桜楓社

———(1990)『関東地方域の方言についての方言地理学的研究 第2巻表現法事象分布論篇』桜楓社

国国語研究所編(1993)『方言文法全国地図3』大蔵省印刷局

———(2002)『方言文法全国地図5』大蔵省印刷局

- 篠木れい子(1994)「群馬県方言における意志・勧誘・推量表現の考察—「ベイことば」の諸相と変化を中心に」群馬県立女子大学紀要 15
- 仁田義雄(1991)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 日本語記述文法研究会(2003)『現代日本語文法4 第8部モダリティ』くろしお出版
- 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃(2002)『新日本語文法選書4 モダリティ』くろしお出版
- 森山卓郎・仁田義雄・工藤浩(2000)『日本語の文法3 モダリティ』岩波書店
- 平山輝男編(2004)『日本のことばシリーズ8 栃木県のことば』明治書院
- 森下喜一(1977)『栃木県方言辞典』桜楓社
- (1984)「栃木県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学5 関東地方の方言』国書刊行会

謝辞

お忙しいところ長時間にわたって調査にご協力いただいた深津朝雄氏に厚く御礼申し上げます。熊倉昇氏、中田高音氏、石川ハルコ氏、栗原輝江氏、館野榮氏、谷政深氏にも心より感謝申し上げます。また、調査の実施にあたりましてご尽力いただきました岩舟町教育委員会、新井小枝子氏、松本玲子氏に感謝申し上げます。

(いちおか かよ・東京都立大学大学院生)